

平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	造形4(Modeling4)	授業コード	C177352
担当教員名	富田礼志	科目ナンバリングコード	
配当学年	2	開講期	後期
必修・選択区分	選択	単位数	1
履修上の注意または履修条件	「造形1」、「造形2」、を事前に履修しておくこと。		
受講心得	この科目は学生が次の目標を達成できることをめざしています。授業時はもちろん、課外の予習復習(自習)を通して、これらの目標が達成できるように学習を進めてください。 ●平面空間における構成力や表現力を応用することができる。 ●造形表現の意味を理解し、追求することができる。 ●色の持つ特色を理解し、道具や絵具の使い方に関して再確認ができる。		
教科書	資料を配布します。		
参考文献及び指定図書			
関連科目	造形1、造形2、造形3、デッサン1、デッサン2、CG基礎、CG1、CG2、CG3		

授業の目的	この科目の目的は、デジタル技術を用いた平面表現(2DCG)を習得する上での基礎となる平面感覚を養うことにあります。授業は演習形式で行い、素材を肌で感じ、様々な表現方法を理解し、道具に触れ、手作業により作品制作を行います。具体的には、「造形1」「造形2」で身につけた平面感覚を土台に以下の3点を学びます。(1)ものを創造し、表現し、伝える表現技法について学びます。(2)制作を通し自分の中で掘り下げてものを考え、分析し、表現していく力を養います。(3)平面の中の立体感覚、空間感覚を養います。
授業の概要	「視覚的、空間的な概念について」、「もののあり方を伝える行為について」を柱に学習を進めます。視覚的、空間的な概念を演習を通じて学んでいきます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：視覚的、空間的な概念について1-1 視覚的、空間的な概念について、色彩の側面から学習していきます。色彩をテーマにして、考え方や表現方法についての講義を演習を通じて学んでいきます。また、その都度、実制作に必要となってくる専門の知識を盛り込んでいきます。 (1)色彩の心理・見え方・調和について その場の状況に合わせた色彩を、事例を挙げて学習します。	実習課題1 視覚的、空間的な概念について1
第2週：視覚的、空間的な概念について1-2 (2)空間の概念と色彩計画について 空間とその状況における色彩の計画案を作成し、概念を分析し考察する方法論を学習します。	実習課題1 視覚的、空間的な概念について1
第3週：視覚的、空間的な概念について1-3 (3)空間における造形要素と色彩による効果について (1)(2)で学んだことを念頭において、造形において色彩が、制作する目的や過程によってどのように変化するのかを学びます。事例をあげて学習します。	実習課題1 視覚的、空間的な概念について1
第4週：視覚的、空間的な概念について2-1 平面(2D)をテーマにして、その概念を演習を通じて学んでいきます。 (1)平面構成の要素一点、線、面について 点、線、面を用いた構成要素を事例を挙げて学習します。	実習課題2 視覚的、空間的な概念について2
第5週：視覚的、空間的な概念について2-2 (2)平面構成の手法、美的形式による構成について (1)の要素とともに、構成の手法を事例を挙げて学習します。	実習課題2 視覚的、空間的な概念について2
第6週：視覚的、空間的な概念について2-3 (3)制作手法と表現手法について 用語と事例を用いて技術と制作手法を学習します。	実習課題2 視覚的、空間的な概念について2
第7週：視覚的、空間的な概念について2-4	

(4)コンポジションとテクスチャーについて (1)(2)(3)の演習において身につけた技術を確認し、制作した作品をクラス全体で発表し、意見交換を行います。		実習課題2 視覚的、空間的な概念について2
第8週：視覚的、空間的な概念について3-1 時間の概念をテーマにして、グループ演習を行います。時間に関する考え方、表現方法、表現の幅などを分析し、考察していく方法を学びます。 (1)時間軸の理解と表現について これまでに演習してきたものとともに、時間の概念について、事例を挙げて学習します。		実習課題3 視覚的、空間的な概念について3
第9週：視覚的、空間的な概念について3-2 (2)自然系素材からの形成による造形表現について 自然系素材を学ぶとともに、それを形成し造形する要素と構成について学習します。		実習課題3 視覚的、空間的な概念について3
第10週：視覚的、空間的な概念について3-3 (3)人工系素材からの形成による造形表現について 人工系素材を学ぶとともに、それを形成し造形する要素と構成について学習します。		実習課題3 視覚的、空間的な概念について3
第11週：もののあり方を伝える行為について1 ものの伝わり方、伝え方についての方法論を学習します。「伝える・伝わる・伝えられる」の3要素によるコミュニケーション方法を分析し、考察していきます。また、その分析し考察した結果に対して、さまざまな側面、考え方の講義を行います。 (1)これまで学んできた色彩・平面・立体・空間・時間という5つの要素から、コミュニケーションを行うことを前提としたデザインについてプリントなどの資料を用いて学習していきます。		実習課題4 もののあり方を伝える行為について
第12週：もののあり方を伝える行為について2 コミュニケーション・ツールの習熟訓練 ピクトグラム、サインシステムなどのデザイン方法、利用法を、フィールドワークなどを通じて確認していきます。それを基に身体および言葉によるアプローチを行います。		実習課題4 もののあり方を伝える行為について
第13週：もののあり方を伝える行為について3 12週に引き続き実習課題に取り組めます。		実習課題4 もののあり方を伝える行為について
第14週：もののあり方を伝える行為について4 13週に引き続き実習課題に取り組めます。		実習課題4 もののあり方を伝える行為について
第15週：まとめ これまでの学習、演習、課題など制作したものをクラス全体で発表、評価を行います。		講評会
第16週：期末試験 試験は実施しません。授業中の課題によって成績を評価します。		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	手作業により作品制作を行うため、素材や道具への関心を常に持つ。
【知識・理解】	造形表現の意味を理解し、追求することができる。
【技能・表現・コミュニケーション】	色彩の特色を理解し、道具の使い方、絵の具の塗り方に関して再確認ができる。
【思考・判断・創造】	制作を通し自分の中で掘り下げたものを考え、分析し、表現していく力を養う。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			10点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		10点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		40点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		40点		
(「人間力」について) ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	1. 教師の指示や提示課題を理解し、制作に自分なりの工夫を加えること。 2. 発想や制作過程や作品の仕上がりに独創性があること。
発表・その他(無形成果)	1. 無駄話をせず、集中して制作に取り組むこと。 2. 与えられた材料を無駄にせず、有効に使うこと。 3. 使った道具や場所を清掃すること。